

【学位論文審査の要旨】

本論文は様々な臨床経験を有する看護師が勤務する訪問看護ステーションの看護師を対象に、訪問看護ステーション巡回型シミュレーション教育プログラムを開発し、試験的に導入することでそのプログラムの有用性を検討した。

1) 研究目的、方法の明確性

本論文の主題に沿って、国内外にわたる文献検討は丁寧に行われており、プログラム開発の必要性と意義、目的は明確であった。また、研究方法は、文献検討を根拠として綿密であり、プログラム開発の方法、手順も明確であった。また、本プログラムの有用性の検討は、シミュレーションデザイン尺度などを用い、可能な限り客観的に評価できる方法を用いて分析するなど、明確であった。

2) 研究の新規性、独創性

本研究は、プログラム開発と評価として、文献検討、インタビュー調査（分析対象 7 名）、教育的介入研究（分析対象 5 施設 33 名）についてその過程が明確に記述されており、論文構成と論旨も明確であり、研究倫理も遵守されていた。また、シミュレーション尺度などを用いて評価した点には独創性があると言える。加えて、訪問看護師を対象とした巡回型のシミュレーション教育は日本では開発されておらず、本研究の成果は、在宅看護学、看護教育学の発展に寄与する新規性のある研究である。

3) 研究の意義と看護への貢献

本研究の中心をなすヒト型シミュレータを用いた状況設定型シミュレーションのニード分析では、「適合性の高いニード」と「工夫を必要とする教育ニード」が提示されており、本プログラムの適用範囲を絞り込む上でも重要なデータとなっていた。特に、教育内容の【フィジカルアセスメント】【優先順位・判断】は、適合性の高いニードであり、訪問看護ステーションのみならず、専門職連携にも応用可能な看護実践の教育研究に寄与するものと考えられた。加えて、COVID-19 感染症拡大の状況下で、訪問看護師によるケアの質向上は、重要な課題であり、本分野における貴重な基礎的データであり、実践的にも意義あるものと言える。

論文審査会では、①研究目的と研究デザインについての確認（研究デザインの妥当性、有用性の検証方法とその考え方）、②研究仮説の設定、教育介入としての研究対象者の統計的な設定の妥当性、③プログラムの教育効果に影響する要因（地域特性、ステーションの特性、など）④研究の限界と今後の課題、⑤看護への貢献度等が問われた。また、提示された正誤表と本文および表の加筆について確認した。

これらの質問事項、確認事項について、学位申請者からは妥当な回答が得られ、要検討事項については、真摯に受け止めていた。

公聴会では、本プログラム導入における経費、実施時の場所の確保、尺度得点の比較にお

ける有意差の解釈、巡回型プログラムの利点とその評価、プログラム開発時に使用したテキストマイニングの階層的クラスター分析と共起ネットワーク分析を用いた理由と活用した点、バーチャルシミュレーションの評価方法、参加回数による検定結果の解釈等について質問があり、学位申請者から適切な回答が得られた。

以上のことから、本研究は、博士論文として評価できる水準に達しており、学位申請者は、博士（看護学）の学位に相当する専門的知識と資質を備えていると判断した。